

## 地域における薬剤師の取り組み

千葉県薬剤師会副会長 眞鍋 知史氏



眞鍋 知史さん

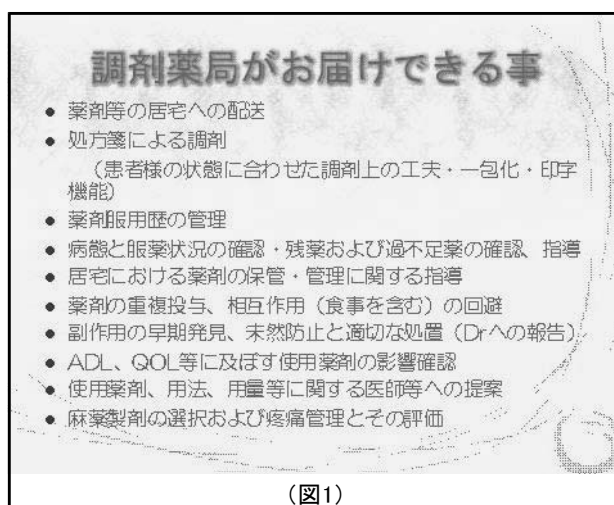
皆さん、こんにちは。千葉県薬剤師会の眞鍋と申します。今日、ここに来る前まで千葉大で薬局の地域医療をどのように進めていくかという全国的な会議に参加していました。そこで、ちょっとこれはおもしろいなと

思った話を1つ御紹介させていただきます。

### 薬剤師の役割は医療界の案内人

ある先生が、我々薬剤師というのは、患者さんにとってどういう立場であるべきだろうか、というお話をされました。その先生は「私たち薬剤師は、優しい旅行のコーディネーターであるのが望ましいのではないのでしょうか」という話をされていました。旅行のコーディネーターは、旗を持って旅行の案内してくれたりプログラムをつくってくれる方ですね。あの方は、皆さんが旅行するときに必ずいないといけないという方ではありません。インターネットなどで調べながら、皆さん自身で旅行計画を立て、自分の知識で旅行をするというのも一つの手です。

しかし、旅行案内人をうまく使うと、その旅行先が安全なのか危険なのか、仮に危険だとしてもその危険を避けて行く方法はあるのか、その名所は何なのか、隠れた名所＝穴場はどこにあるのか、そこにはどうやって行ったらいいのか、そういうことも含めて旅行をより楽しく、安全に楽しませてくれるのがコーディネーターではないか。私たち薬剤師は、医療という一般の患者様たちにはよくわからない世界について、より安全に、危険を避けながら楽しいところをうまくとっていき、そういうふうな道案内ができるようになれば、我々薬剤師の本望というか、役割が達せられたのではないかというお話をされました。私もその考えに賛成です。今日はそれののっとなって少しお話をさせていただきたい

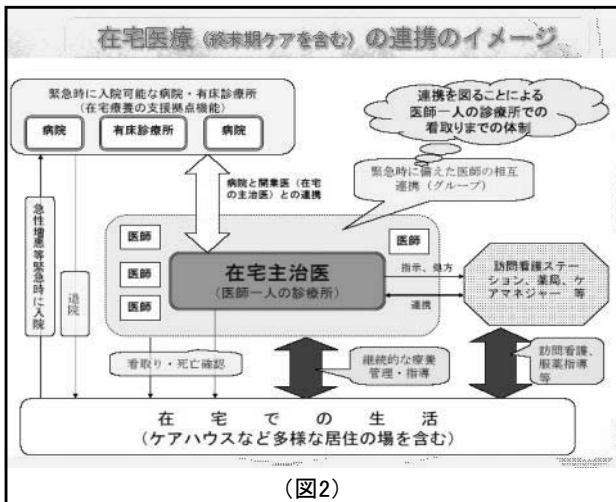


と思います。

我々、調剤薬局が皆様にお届けできることって何だろう。まず、薬剤を皆さんのお宅にお届けすることはできます。処方箋による調剤ができます。これは当然のことですが、我々はただ単に調剤をしているだけではなく、患者様の状態に合わせた調剤の工夫ができないだろうか、毎回毎回考えています。飲み込む力が弱くなってしまった方にはどうしたら飲み込みやすいだろうか、と考えます。薬を1回分ずつ分けてお渡ししたり、いつ飲む薬かがはっきりわかるように印字したりしながら、処方箋による調剤を行なっています。また、どういう薬をどういふふう飲んで、そのときにどういふふうな症状が出たか、副作用などは出ていないかを確認しながら薬剤服用歴というものを管理しています。病気の状態や、薬を飲んでいる状況を確認し、薬が残っていないか、過不足がないかということも確認しながらお話をさせていただいています。

居宅における薬剤の保管、薬はどういうふうにかに置いてあるか。最高気温が30℃を軽く超えてしまうようなときに、薬は本当に大丈夫なのか。薬の飲み合わせや、食べ物との相性、最近は健康食品がかなり進んできていますので、それらと薬との相性も気にしながら皆様にお話しさせていただいています。

これは大切なことですが、副作用が出ていないかどうか。出ているとしたらこれを早く見つけて、それを回避しなければいけません。薬や病気が体の活動や生活に影響を及ぼしていない



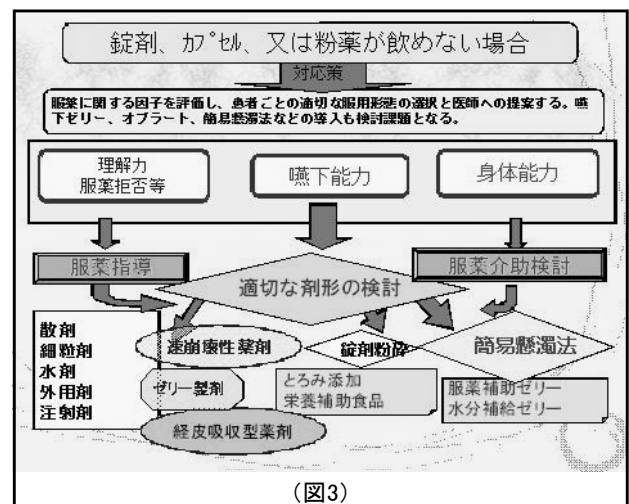
か、そういうものも見ています。場合によっては薬を「こっちよりも、こっちの方がいいのではないですか」とか、飲み方の提案、量の提案などもすることもあります。それから麻薬ですが、痛みが出てきてしまったときに、その痛みをできるだけ軽くし、感じなくして、それでいて体がしっかり動くようにしていく、そういうことも考えております。

在宅医療の連携のイメージを図2に書いてみました。まずやはり生活の場が一番大切です。在宅でどのように皆さんが過ごしていらっしゃるのか。それを中心になって診ていただくのが在宅の主治医になります。在宅の主治医は、治療を中心になって行なっていただける拠点病院との連絡を密にさせていただきたいと思っております。在宅の主治医から指示を受けて、訪問看護ステーション・薬局・ケアマネージャーなどが共同して皆さんの在宅での生活をよりよきものにしていく、それが地域連携のイメージではないかと私は思っています。

### 「薬が飲めない」と言われたら…

例えば、その中で「薬が飲めなくなってしまった」という場合を考えてみましょう。これは病気で飲み込めなくなる場合もあります。お年を召してくるとだんだんこういう症状が出てくる方は非常に多いです。どうしたらいいかと考えます。飲めなくなってしまった原因は何だろうか。例えば、「この薬って何のために飲んでいいのかよくわからなくなってしまった。だから薬なんか飲みたくない」というふうな服薬の拒否が原因なのか。例えば、薬を取り出すことが非常に困難になって薬が飲めなくなっているのか、飲み込む力そのものが落ちてしまって薬が

飲めなくなっているのか。それぞれに応じて服薬指導します。例えば「こういう薬なんです。飲むとこういうふうになるから、ぜひ飲んでください」と勧める。例えば、飲みやすくするためにプラスチックのケースから出した状態でお薬を渡す。できるだけ飲む回数を減らして、ヘルパーさんや御家族の介助が得やすい状態のときに薬を飲むようにする。錠剤がいいのか粉がいいのか、今は口の中に入れると溶けてしまうような錠剤もありますので、そういう錠剤を使った方がいいのか、ゼリーみたいなものを使った方がいいのか、そういうことも考えて、処方をした先生にフィードバックをしながら、「薬が飲めない」という問題を解決していく。そういうことも薬剤師はやっております。



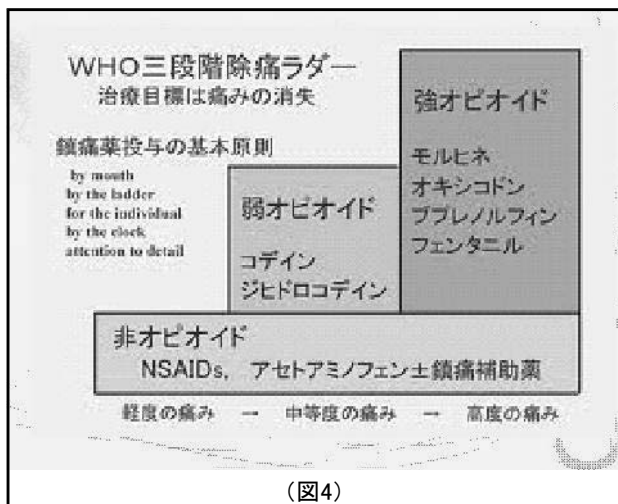
### 訪問薬剤管理指導

皆さんのお宅にお邪魔をしてお薬の説明をしたり、先ほど言ったようなお世話をするというのは、「訪問薬剤管理指導」という仕事になります。介護保険の世界では、「居宅療養管理指導」という言葉があるのですが、その開始に至る4つのパターンがあります。

1. 医師の指示型（医師が指示するパターン）
  2. 薬局提案型（患者さんが来られたときに、「自宅での薬の管理が必要かな」と判断し薬剤師が提案するパターン）
  3. 介護支援専門員提案型（ケア・マネージャーから提案するパターン）
  4. 多職種提案型（看護師さん、訪問看護員の方、家族などからの提案というパターン）
- それぞれ薬剤師が訪問して、どういう状況になっているのかを確認し、患者さんの同意を得て、最後は医師の指示を受けて、訪問活動をさせていただいております。

訪問の流れですが、まず医師または歯科医師から訪問の指示が出ます。その指示に基づいて計画を立てて、皆さんのところを訪問させていただきます。その結果を医師に戻します。場合によってはケア・マネージャーとか、訪問看護師というような方たちと連携をとって、皆さんの生活を守るということをやっております。それが訪問業務の流れになります。

### 痛みを取る麻薬について



今回は、がんのお話ということでしたので、がんの痛みとそれを取る麻薬についてお話をさせていただきます。痛みですが、弱い痛みから強い痛みまで、どの段階でも痛みを取ることは非常に大切です。弱い痛みのときには普通の痛みどめのお薬を使います。だんだん痛みが強くなってくると麻薬を使うようになります。

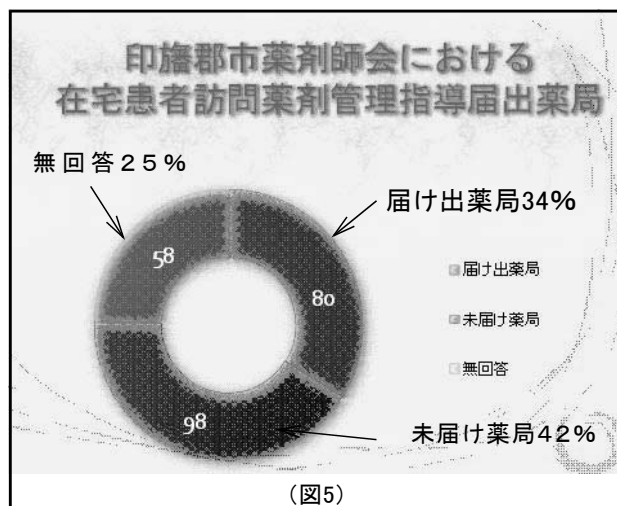
麻薬には副作用もありまして、便秘・吐き気・眠気が出てきてしまいます。麻薬を使うときには、こういう副作用を事前に防ぐことを考えて使ってもらっています。ですので、もし麻薬を飲む必要が生じたときにも、こういう副作用は事前に防ぐことができていると考えて安心して飲んでいただければと思います。

麻薬を飲むと、麻薬中毒になるのではないかと心配する方がいらっしゃいます。痛みがないときに麻薬を飲みますと、快楽が強くなって依存が生じる場合があります。しかし、痛みがあるときには、まず快楽の方に働く前に、痛みという不快なものを取るという方に麻薬が働きますので、快・不快のバランスが取れた状態になり、麻薬中毒、麻薬をやめられなくなるという心配はしない方がいいと思います。

### どこの薬局が訪問してくれるのか？

「在宅患者訪問指導に行きますよ」と言っても、どこの薬局に行ったら聞いてくれるの？ 行ってくれるの？ というお話がよくありますので、私がいる印旛郡市で調べてみました。印旛郡市の全保険薬局にアンケートを取りまして、「在宅患者訪問薬剤管理指導届けをしていますか？ 行けますか？」というアンケートを取りました。回答いただけなかった薬局が 58 軒 (25%) ありましたが、全体の 3 分の 1 の薬局は、「ぜひ行きます。皆さんのところにお薬を届けて、お薬の説明をさせてください」という回答がありました。

では、「どのくらいの範囲行けますか？」という質問には、大体薬局から 1 km から 2 km、歩いて行ったり、自転車で行けるところが範囲というふうに回答したところが多かったです。ということは、皆さんも薬局を選ばれるときに、大きい病院の前の薬局、そういうところもやってくれるところもありますが、それよりも、ぜひ皆さんの御家庭の近くの薬局と仲良くなっていたいで、自分が自宅から動けなくなったときに対応していただく、そういうことが大切のかなと思います。



最後の写真は飛行機が 5 つほど並んで飛んでいます。ブルーインパルスという飛行機チームなのですが、我々はこのように医師、看護師、そのほかいろいろな職種の人が集まって、一団となって連絡を取って患者様を運んでいく。そういう仕事をしていきたいと思っています。御清聴ありがとうございました。